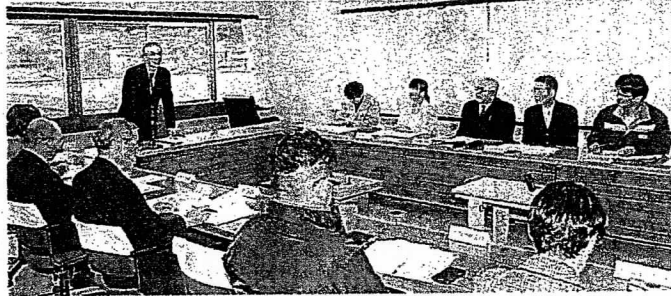


# 江津 少子化で生徒減に備え

## 県立高2校の在り方探る

### 検討会が発足、初会合



江津市内の県立高校の在り方について意見を交わす委員

少子化の進展に伴う生徒数の減少に備え、江津市は9日、市内の県立高校2校(江津、江津工)の在り方を考える検討会を立ち上げ、同市江津町の市役所で初会合を開いた。市、市教育委員会、市内の小中学校長やPTA関係者らが委員を務め、地域の子どもにとって望ましい2校の在り方を計4回協議し、検討結果を2月下旬に山下修市長へ報告することを確認した。

検討会は、県立高校の再編成の指針を盛り込んだ基本計画(2009〜18年度)などを踏まえ、県教委が再編成方針を決める前に、地元としての考えを示す目的で設置した。委員は市内のPTA、校長会、経済団体、行政機関などの関係者15人が務める。両校の14年度の定員充足率はともに68・3%で、定員を下回っている。また、現在各学年3学級の江津(普通科のみ)は15年度入学生から2学級に減少。江津工は現在各学年3科(建築科、機械科、総合電機科)3学級だが、近い将来、県教委が専門高校の統廃合の基準とする「1学年2学級」になる可能性がある。

### 議員ら疑問や懸念の声

瀬戸ヶ島と浜田城 周辺整備計画 市が議会説明

浜田市は9日、2015年度以降の主要事業として計画している瀬戸ヶ島地区の活用と浜田城周辺の整備計画について、県と市が所有する瀬戸ヶ島地区(約4万

設を簡易にし初期投資を抑える。浜田城周辺の整備は国庫補助金や地方債を極力充当する。これにより、全体の事業費のうち、市の実質負担は両事業とも約6億円程度で済む見通し。久保田章市市長は「リスクは最小限にしなければなら

注目を集める 古里発展期待 東京島根県人新年会 首都圏在住の島根県関係者が集う東京島根県人新年

### 同郷同好

初会合には県教委の担当者や両高校長も出席。市の担当者が生徒数の推移などを報告した後、県教委の担当者が再編成基本計画のポイントを、両高校長が各校の現状を説明した。 検討会長に就いた松田夏夫・元浜田高校長は「地域の子どもにとって、どういう方向が良いのかを第一に考え、意見をまとめていきたい」と話した。 市は、検討結果を基に県教委への要望書をまとめ、15年度の早い時期に提出したい考え。

### 除草委託金を振り込みミス

益田市が謝罪 益田市は9日、自治会に

第1回J.Aカグラウンド 3月8日開 3月8日開 3月8日(日) 午前9時から午後3時(予定) 会場 出雲健康公園

パッケージには「島根県益田市産ゆず」と明記してある。山崎製パンの人気菓子パン「ランチパック」に同市産のユズ果汁入りゼリーを使用した新商品が登場し、中四国限定で今月から販売されている。地元人として、もちろん買って食べた。 同商品のご当地シリーズの中で市名まで入るのは珍しく、そこには商品化を提案した地場スーパーのキヌヤのこだわりが

### 津市の 立2高校

# 魅力化や情報発信要請へ

## 在り方 報告書案まとめる 検討会

定員割れが続く江津市内の県立高校2校（江津、江津工）の在り方を考える検討会が11日、同市江津町の市役所で4回目の会合を開き、両校の生徒確保に向けて、魅力化事業や情報発信を県教育委員会に要請することなどを市に求める報告書案をとりまとめた。

案では、2校が少人数指導やキャリア教育などで成果を上げていく点を強調。両校の特色をより充実させるため、県外からの生徒募集枠拡大や「都市版高校魅力化事業」などの新たな施策、情報発信に県教委が取り組むよう求めている。

一方で、少子化の進行や、2015年度から江津が1学年2学級に減り、江津工の同年度一般入試の志願倍率が0.54倍にとどまった現状を踏まえ、将来的な統廃合の可能性にも言及。

子どもの視点に立ち、適正な学校規模の必要性を認め、市内の生徒が自宅から通学でき、幅広い科目を学べる教育環境を地域に確保するために「市内の2校の県立高校の統廃合は、避けて通れないことは理解する」との文言を盛り込んだ。

また、県教委が仮に2校を統合する場合、地元への懸念や不安について住民と十分に意見交換し、解決の方向を示した上で再編計画を策定するよう求めている。

会合はこの日が最後。検討会事務局が細部を詰めて報告書にし、3月中旬に松田夏夫会長が山下修市長へ提出する。

## 14年度小中校の給食食材

# 県産57% 過去最高

県教委調査

2014年度に県内小中学校の給食で使用された食

料の内、県産品が57%に上り、過去最高を記録している。

### 県産食材活用の割合推移



## 感謝や思いを映像に 卒業生フォトムービー作り

出雲・日御碕小



メッセージを持つ地元住民を撮影する安田大輔さん（右）

2014年度末に閉校する出雲市立日御碕小学校（出雲市大社町日御碕）を卒業した20・30代の男女3人が、21日の閉校式で流すフォトムービーを制作している。地元住民や卒業生らが同校への感謝や思いを出を記したスケッチブックを持つ姿を集めて編集し、慣れ親しんだ学びやとの別れに花を添える。

発起人となったのは安田大輔さん(28)、吉田勝俊さん(29)、吉田麻由さん(30)。閉校式を彩ろうと、同校と同日閉園する隣接の市立日御碕幼稚園への感謝の思いや思い出をテーマにしたメッセージを昨年12月以降、集め始めた。

地元であるイベントなどに出向いて撮影したり、日御碕小にゆかりのある人たちから写真を送ってもらったりして、子どもから90代まで幅広い世代から目標の100枚を集めた。

笑顔と共に「たくさんのお礼がありがとうございます。子どもたちがお世話になりました。これからもよろしくお願いします。」など、それぞれの思いが並ぶ写真は、安田さんがパ

## くもぎ保育園 (浜田市金城町)

### 5歳児



次代を担う夢を紹介するは、くもぎ保育園(7条)の5歳児石橋 紗羅ちゃんになりたい植田 陸士太チのオロチに杉本 航ちゃんになるぞ。

岡田 奈々チのジバニャン



通して日御碕の良さに気が

# 島根西部～加速する県立高校再編論議



島根西部の浜田、江津两市が、市内の学校再編論議を立ち上げ、暫定的な県立高校の再編案を公表し、議論を加速している。

浜田市内の浜田、浜田商業、浜田水産の3校と、江津市の江津、江津工業の2校が、少子化の影響で定員割れの状態が続いている。浜田と江津は県教育委員会の定める統合基準に該当する。現状の学校を存続させるか、統合を行うか、統合を断念し半数の校舎を廃止するか、2校対1校で統合されるか、統合方式について既に統合がなされ、高校がない方針など、現状を踏まえ、(江津市)・海老津町、石原本郷町、白根町

## 県教委の方針

生徒数の減少を踏まえ、県は、学校になど1つ、必要になる校舎を削減する方針だ。県教委は、統合を断念した場合は統合を断念し、半数の校舎を廃止する方針だ。統合を断念した場合は、統合を断念し、半数の校舎を廃止する方針だ。統合を断念した場合は、統合を断念し、半数の校舎を廃止する方針だ。

## 教育水準確保へ一定規模

生徒数が60名を年連続で下回ると、再編計画は、教育委員会活動、分校設置、天田市1校町、江津市の江津、江津工業の2校が、少子化の影響で定員割れの状態が続いている。浜田と江津は県教育委員会の定める統合基準に該当する。現状の学校を存続させるか、統合を行うか、統合を断念し半数の校舎を廃止するか、2校対1校で統合されるか、統合方式について既に統合がなされ、高校がない方針など、現状を踏まえ、(江津市)・海老津町、石原本郷町、白根町

## 2校の定員割れ常態化



江津高校 (都野津町)  
・開校 1958年  
・在校生 (2014年度) 219人  
・在校生(同)の出身地 江津市177人、浜田市28人、大田市11人、その他県内3人



江津工業高校 (江津町)  
・開校 1934年  
・在校生 (2014年度) 250人  
・在校生(同)の出身地 江津市112人、浜田市96人、大田市32人、その他県内9人、県外1人

【江津市内の私立高校2校の概要】  
石見留置館高等学校 (渡津町)  
・開校 1907年  
・在校生 (2014年度) 519人 (うち江津市出身者112人)  
キリスト教愛真高等学校 (浅利町)  
・開校 1988年  
・在校生 (2014年度) 46人 (江津市出身者なし)

【江津市内の中学校卒業予定者の推移】  
2015年3月卒業 255人  
16年3月卒業 221人  
17年3月卒業 197人  
18年3月卒業 220人  
19年3月卒業 205人  
20年3月卒業 177人  
21年3月卒業 188人  
22年3月卒業 200人  
23年3月卒業 183人

# 「存続」か「統合」か分かれる意見

## 浜田市

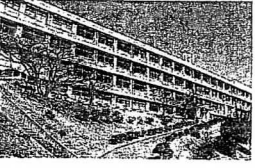
浜田市内の県立高校の2015年度までの平均定員割れ率は、浜田98%、浜田商業76%、浜田水産57%。多くは定員割れが深刻な状況だ。



浜田高校 (黒川町)  
・開校 1893年  
・在校生 (2014年度) 614人  
・在校生(同)の出身地 浜田市527人、江津市63人、益田市3人、その他県内10人、県外11人



浜田商業高校 (熊田町)  
・開校 1964年  
・在校生 (2014年度) 242人  
・在校生(同)の出身地 浜田市216人、江津市23人、その他県内3人



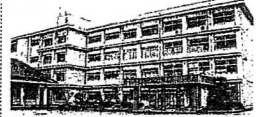
浜田水産高校 (瀬戸ヶ島町)  
・開校 1948年  
・在校生 (2014年度) 145人  
・在校生(同)の出身地 浜田市99人、江津市15人、益田市2人、その他県内12人、県外17人

## 水産、商業 基準に該当

市内の中学校の卒業生(6月1日)を15年1517人、16年1500人、17年1460人と減少傾向が続いている。18年度も減少傾向が続いている。19年度も減少傾向が続いている。20年度も減少傾向が続いている。21年度も減少傾向が続いている。22年度も減少傾向が続いている。23年度も減少傾向が続いている。

## 高校消えた美郷町

生徒数の減少を理由に川本高校と昌智高校が統合し、2007年に島根中央高校(川本町川本)が誕生した。昌智を存続校としたため、昌智があった美郷町は、昌智を除く川本の市町で唯一、高校がない町になった。



P.T.A.関係者らが反対したが、かなわなかった。昌智の校舎は現在、昌智中学校の校舎として使われている。一方で、統合されたからと見て、町内の中学生が島根中央に進学するケースは多くない。町教育委員によると、13年度の中学卒業生41人のうち3人だけだ。飯南高校(飯南町野宮)や大田高校(大田市大田町)、矢上高校(邑南町矢上)などへの進学が増えており、分散化が進んでいる。同町の三上利三教育委員長は「統合の影響を数字で表すことは難しい」としつつも、統合前の08年度には36人が入学したと報告している。

公共交通機関を使った通学や商店での買い物、数少ないの定住など、経済効果も少なくならずあったけれど、町商工会の関係者も「当時諦念していたことは現実になっている」と語る。

【浜田市内の中学校卒業予定者の推移】

2015年3月卒業	467人
16年3月卒業	444人
17年3月卒業	465人
18年3月卒業	487人
19年3月卒業	458人
20年3月卒業	476人
21年3月卒業	487人
22年3月卒業	430人
23年3月卒業	449人

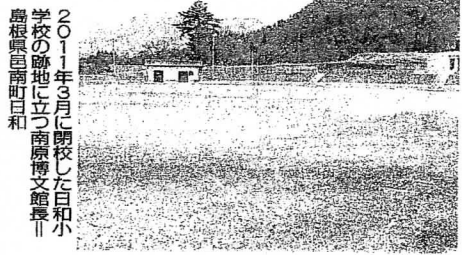
## 地域の衰退 現実味帯びる

県教育委員会が昌智の統合方針を発表したのは2005年だった。それ以前にも県教委は「県立高校再編案」を公表し、統合されたからと見て、町内の中学生が島根中央に進学するケースは多くない。町教育委員によると、13年度の中学卒業生41人のうち3人だけだ。飯南高校(飯南町野宮)や大田高校(大田市大田町)、矢上高校(邑南町矢上)などへの進学が増えており、分散化が進んでいる。同町の三上利三教育委員長は「統合の影響を数字で表すことは難しい」としつつも、統合前の08年度には36人が入学したと報告している。

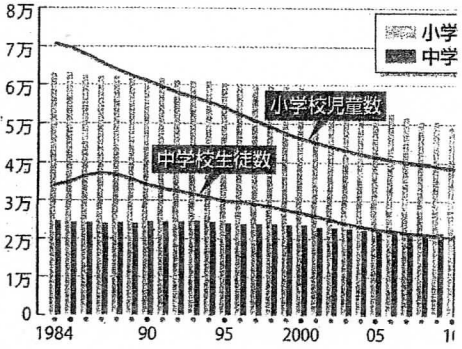
# 島根県政の課題～知事選・県議選を前に～⑦

島の将来を担う子どもたちへの教育環境の充実が欠かせない。だが、少子化に伴う小中学校の統廃合や県立高校の定員割れなど課題を抱える地域、学校は少なくない。

放課後はそれぞれ学校近くの学童施設で過ごすため、平日の日に、小学生の姿を見かけることはほとんどなくなっている。変化はそれだけではない。小学生や就学前の幼児がいる世帯が、地区を出て両小学校の近くに家を建てたケースが「知っているだけで5世帯あった」と南原館長は言う。



2011年3月閉校した日知小の校舎跡地に、南原博文館長



して匡が負債を示したの58年ぶりとなる。新基準を当てはめると、県内の小学校は、70・6%の151校、中学校は45・9%の45校が対象となる。「教育環境の充実」をうたう国の統廃合加速の動きに対し、地域からは疑問の声が上がる。14年12月にあった県町村会と県の人口減少対策に関する意見交換会で、海上町の山内道雄町長は「一学校を維持することが対策の要」と述べ、島教育委員会は「小規模市町村教委や地域が統廃合に直面するのに対応が求められる」と述べた。

「来春、吉高が変わる」。県西端の山口県境に近い県立吉高高校（吉高町七日市）は2014年12月、町内の4中学校の生徒が入試方式の変更を知らせるパンフレットを配った。在校生や卒業生のメッセージを収録したDVDを添付。アイデアは、町の教育長や住民でつくる「後援会」が提案した。同校は、01年度に始めた「中高一貫校」の一環で、入試で町内の中学生を優先的に受け入れる「特別選抜」を導入。1学年40人の全定員を対象とした。

「カ化コティネーター」の坂田紀之氏(57)らだった。坂田氏や住民を交えて高校の在り方を話し合い、15年度入試は、特別選抜の定員を20人に半減させ、残り20人を一般入試で募る方式に改めた。町内の中学生にとっては門戸が狭まされたが、「逆効果」が懸念されたが、一般選抜の志願者は14人、定員割れは避けられないものの、県外の中学生2人が含まれるなどの成果があった。

事業「の対象とし、コティネーターの配置を含む地元の各町教委の計画に対し、費用の一部を助成して、吉高高校を含む5校で、15年度の一般入試の志願倍率が、14年度に比べて3割増しに増加。この間、学級数の1増を実現した。同校を参考に、県教委は11年度に同校や吉高高校など離島や中山間地域の8校を「魅力化・活性化」事業の対象とし、コティネーターの配置を含む地元の各町教委の計画に対し、費用の一部を助成して、吉高高校を含む5校で、15年度の一般入試の志願倍率が、14年度に比べて3割増しに増加。この間、学級数の1増を実現した。同校を参考に、県教委は11年度に同校や吉高高校など離島や中山間地域の8校を「魅力化・活性化」事業の対象とし、コティネーターの配置を含む地元の各町教委の計画に対し、費用の一部を助成して、吉高高校を含む5校で、15年度の一般入試の志願倍率が、14年度に比べて3割増しに増加。この間、学級数の1増を実現した。同校を参考に、県教委は11年度に同校や吉高高校など離島や中山間地域の8校を「魅力化・活性化」事業の対象とし、コティネーターの配置を含む地元の各町教委の計画に対し、費用の一部を助成して、吉高高校を含む5校で、15年度の一般入試の志願倍率が、14年度に比べて3割増しに増加。この間、学級数の1増を実現した。同校を参考に、県教委は11年度に同校や吉高高校など離島や中山間地域の8校を「魅力化・活性化」事業の対象とし、コティネーターの配置を含む地元の各町教委の計画に対し、費用の一部を助成して、吉高高校を含む5校で、15年度

「中高一貫校」の一環で、入試で町内の中学生を優先的に受け入れる「特別選抜」を導入。1学年40人の全定員を対象とした。ところが、14年度入試では、町内の中学校卒業生63人に対し、同選抜に志願したのは27人。不足を補うため募集した一般入試の志願者は1人で、大幅な定員割れを起こした。

「魅力化・活性化」事業「の対象とし、コティネーターの配置を含む地元の各町教委の計画に対し、費用の一部を助成して、吉高高校を含む5校で、15年度入試は、特別選抜の定員を20人に半減させ、残り20人を一般入試で募る方式に改めた。町内の中学生にとっては門戸が狭まされたが、「逆効果」が懸念されたが、一般選抜の志願者は14人、定員割れは避けられないものの、県外の中学生2人が含まれるなどの成果があった。

「魅力化・活性化」事業「の対象とし、コティネーターの配置を含む地元の各町教委の計画に対し、費用の一部を助成して、吉高高校を含む5校で、15年度入試は、特別選抜の定員を20人に半減させ、残り20人を一般入試で募る方式に改めた。町内の中学生にとっては門戸が狭まされたが、「逆効果」が懸念されたが、一般選抜の志願者は14人、定員割れは避けられないものの、県外の中学生2人が含まれるなどの成果があった。

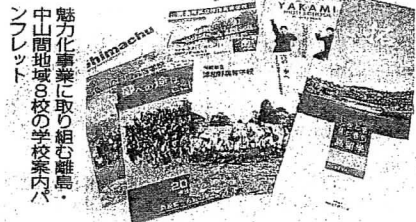
## 都市部で取り組み必要

### 県立高魅力化



吉高高校の課題や将来について意見を出し合う地元住民ら—2014年2月、島根県吉高町七日市（資料）

### 定員割れ常態化や私立台頭



魅力化事業に取り組み、中山間地域8校の学校案内パンフレット。益田市にも進行し、県外を含めた外部から生徒を呼び込んでいく。市内の高校に進学する中学生の半近くが同校に進学するなど、相乗効果を生んでいる。小中学校長やPTA関係者でつくる江津、江津二高を、全県で育てていく手はない。



# 島根マツダ U-car Land

楽しくてオトクな情報満載 島根マツダホームページ <http://www.shimanemazda.co.jp/>

**U-Cars 松江店**  
(0852)24-2000 松江市東津田町1083-1  
山陰本線

**U-Cars 出雲店**  
(0853)21-2333 出雲市白根町635-11



江津市は定員割れが続く市内の県立高校の在り方を考える検討会を設置した。

市内にある江津高校、江津工業高校の県立2校は定員割れが続き、このままでは近い将来統廃合が見込まれている。

島根県西部では浜田市でも浜田高校などで入学者が定員を下回る状況が続いており、県立高校の再編問題が浮上している。

少子化の影響で生徒確保が困難になっているためだ。県西部の拠点校である浜田高でさえ定員割れに見舞われている現状に問題の深刻さが象徴されている。ドミノ倒しのように定員割れが広がる。

それをどう食い止めるか。子どもの数が減少していく中で教育の質を維持していくた

27. 1. 20 2015. 1. 20

## 江津市の県立高校の在り方

山根中央

# 生徒本意で議論を進めよ

め、どんな方策が可能なのか。将来も見据えながら、そのための議論を検討会で深めてほしい。

江津高、江津工とも定員割れが常態化している。共に1学年3学級(定員120人)だが、過去3年間の平均定員充足率は江津高63%、江津工

県教委が定めた県立高校の(1学級)を廃止して普通科に替えただが、それでも定員を確保できなかった。統廃合基準では、普通高校は1学年2学級の学校で2年連続して定員充足率が60%を下回るが見込まれる場合、近隣の高校と統合対象となる。

専門高校については1学年2学級になるが見込まれれば、統合を検討する。今後江津市の子どもの数は減っていくため、両校とも現在の定員確保は厳しい。

率性」には欠けるかもしれないが、小規模校でも特色ある教育を目指す。

そのため、現行の統廃合基準を「不磨の大典」とすべきかどうか。過疎化と少子化が加速する中で基準を見直すことも柔軟であってほしい。

検討会は両校PTAや教育関係者らで構成。両校の在り方について議論し、本年度中に検討結果をまとめ、それを踏まえて来年度に県教委に要請する。

71%。

子どもの数が減っているのが続いているため、2015年度から1学級減の1学年2学級とすることが決まっています。

現在の統廃合基準は、教育の質を保つためにある程度の子どもの数が減ることによって、生徒数規模が必要との前提に立っている。教員の配置や部活動を維持する上で学校規模を重視している。

石見智翠館高校にかなりの生徒が入学している影響も受けている。大学進学や部活動などで実績を挙げている同校

の対象となる。同校では3学級のうち特に向上させる方法も模索されるべきではないか。「教育の効

進学と就職の進路を通学可能な地元で選択できる。生徒本意で議論を深めるべきだ。

も少なくない。

定員割れが大きかった英語科

本意で議論を深めるべきだ。

## 論説